

道路建設を取止め、授かった相生山緑地を 今まま、一塊で残すことを求める請願

〔請願事項〕

道路建設を取止め、授かった相生山緑地を今まま、一塊で残すことを求める

〔請願理由〕

気候変動、生物多様性の損失、海洋プラスチック汚染は現代の 3 大環境問題とされている。これら環境問題の解決をするための学問分野として位置づけられた環境倫理学は、社会倫理として認識され三つの基本主張が挙げられている。①自然の生存権（人間だけでなく、生物の種、生態系、景観などにも生存の権利があり否定してはならない。）②世代間倫理（現在世代は、未来世代の生存可能性に対して責任がある。）③地球全体主義（地球の生態系は開いた宇宙ではなく閉じた世界である。）環境問題に対して名古屋市は、第 4 次名古屋市環境基本計画を策定し、「環境の保全」に関する施策を進めている。更には、地球沸騰化時代を迎えたなしの問題として「名古屋市地球温暖化対策実行計画 2030」が策定され、名古屋市が進める各事業の洗い直しが求められている。

ここ相生山緑地においては、この緑地を横切る市道弥富相生山線が都市計画決定されたのは天白村が名古屋市へ合併された 2 年後となる 1957 年（昭和 32 年）の半世紀以上前であり、当時の環境とは大きく変化した今、気候変動の施策として相生山緑地の保全が益々重要になっている。更には「都市計画緑地」として昭和 15 年に都市計画決定されてから 85 年も経過し、今となっては貴重な一塊の緑地として、都市に残された自然として豊かな生態系を育んでいる。希少種ヒメボタルが群生することがそれを物語っている。

道路を作ることによって「環境の保全」に逆行してはならない。道路ができるによる新たな渋滞や交通事故への危険が生まれ、さらには車の走行により緑地内の静けさは損なわれ、振動による生き物たちへの影響も懸念される。道路の必要性について、学術検証懇談会で専門家から出された「必要な短縮なのか、必要な効果なのか」の検証は未だ行われていない。騒音・振動・空気汚染などによる生活環境の検証も必要である。

相生山緑地においても、生息する希少種ヒメボタルの飛翔数の調査を環境調査としているが、生息環境調査は行われてはいない。また、車の走行による振動が生き物に与える影響が専門家より指摘されているがこれに対する検証も必要である。これら生態系への影響について、自然環境の検証が欠かせない。

この豊かな自然を受け継ぎ、未来に残していくことこそ、今を生きる私たちの責任と考えます。

以上